

# 鹿児島純心女子大学 卒業生アンケート 調査報告書

2019年7月

鹿児島純心女子大学 進路支援委員会

## 「取組の概要」

### 1 調査目的

本学では、教育内容の改善や就職支援プログラムの向上を目的としたアンケート調査を実施した。前回は第1期生から第12期卒業生を対象として行われ、今回は第13期生から第21期生までを対象としたアンケート調査を実施し前回との比較検討も行った。

さらに今回調査では、中央教育審議会答申にある「学士力」や経済産業省が提唱する「社会人基礎力」等に基づき、実社会での経験に照らした調査も実施し、社会人として必要と思われる能力・資質が卒業生に備わっているかについても調査した。

### 2 調査方法

「白百合」同窓会の名簿から、当該年度の卒業生をラベル出力し、平成30年10月30日にアンケート用紙を同封し発送した。回収期限は平成31年1月31日までとした。

なおアンケート回収については、同封した返信用封筒に加え、FAX、スマートフォンからの電子メール回答も今回から実施した。

### 3 個人情報保護について

返送されたアンケートは記名であるが、コンピューター入力の際は個人名を削除して入力し、入力後アンケート用紙は破棄した。

### 4 結果

送付アンケート総数 1217通（1513通）

回答総数 134通（272通）

全体回収率 11%（19%）

卒業期	卒業年度	卒業人数	回収数	回収率
13	21	149	12	8.1%
14	22	140	12	8.6%
15	23	137	14	10.2%
16	24	110	6	5.5%
17	25	125	16	12.8%
18	26	141	14	9.9%
19	27	137	9	6.6%
20	28	132	24	18.2%
21	29	146	27	18.5%
合計		1217	134	11.0%

学科別回収率

卒業期	英語・ことば		
	卒業生数	回収数	回収率
13	31	3	9.7%
14	20	0	0.0%
15	30	3	10.0%
16	15	1	6.7%
17	14	2	14.3%
18	22	0	0.0%
19	21	3	14.3%
20	12	1	8.3%
21	22	5	22.7%
合計	187	18	9.6%

卒業期	こども		
	卒業生数	回収数	回収率
13	42	5	11.9%
14	34	2	5.9%
15	29	2	6.9%
16	31	3	9.7%
17	31	5	16.1%
18	33	8	24.2%
19	44	3	6.8%
20	39	10	25.6%
21	32	4	12.5%
合計	315	42	13.3%

卒業期	看護		
	卒業生数	回収数	回収率
13	41	3	7.3%
14	40	6	15.0%
15	39	7	17.9%
16	36	1	2.8%
17	42	3	7.1%
18	40	2	5.0%
19	33	2	6.1%
20	36	7	19.4%
21	43	8	18.6%
合計	350	39	11.1%

卒業期	健康栄養		
	卒業生数	回収数	回収率
13	35	1	2.9%
14	46	4	8.7%
15	39	2	5.1%
16	28	1	3.6%
17	38	6	15.8%
18	46	4	8.7%
19	39	1	2.6%
20	45	6	13.3%
21	49	10	20.4%
合計	365	35	9.6%

今回のアンケート回収については、同封した返信用封筒に加え、FAX、スマートフォンからの電子メール回答も実施した。しかし99%が返信用封筒での回答であり、FAX、スマートフォンからの回答は殆ど無かった。回収率をあげるために新たな方式を取り入れたところであったが、効果は見られなかった。

さらに前回調査は、同窓会報「しらゆり」を郵送する際に同封するという手段をとったため、大学の情報収集もしやすかったため卒業生も協力しやすかったという事情もあったが、今回は同窓会の都合により同窓会報への同封ができず単独での発送となったため、大学の情報提供不足もあり、回収率の低下につながったものと思われる。

## 2. アンケートの内容についての結果

### 2-1. 現在の状況

表3 現状について

		前回調査(H21)	今回調査 (H30)
1	正規雇用	38.0%	26.0%
2	パート	3.0%	11.0%
3	アルバイト	1.0%	0%
4	一度就職したが合わずに退職	1.0%	4.0%
5	無職	2.0%	1.0%
6	求職中	1.0%	0%
7	未婚	11.0%	14.0%
8	既婚	12.0%	11.0%
9	主婦	6.0%	7.0%
10	産休・育休中	5.0%	3.0%
11	介護休業中	0%	0%
12	結婚して退職	3.0%	4.0%
13	産休・育休を取得できず退職	0%	1.0%
14	子供がいる	9.0%	12.0%
15	介護のため退職	0%	0%
16	現在はそうでないが将来求職予定	4.0%	5.0%
17	学生(大学院、専門学校、留学)	4.0%	1.0%

「前回調査」 正規雇用率 38.0%

「今回調査」 正規雇用率 26.0%

前回調査では、1期生から12期生までを調査した。結婚後も正規に就業している人が多く、1期生も調査段階では、30歳台半ばであったので、複数の子供がいて、育児への手間がかかるような状態には無いようであった。

今回調査は、13期生から21期生までの調査となり、対象年齢も23歳から31歳と、前回調査年齢より、対象年齢層が若干若いという特徴がある。傾向としては、各項目の割合は全体的に前回と類似した傾向にあるようだが、正規雇用率が前回より低下しており、パート等の非正規雇用率が上昇していることがあげられる。

### 2、3. 4 転職、離職理由等

就職後3年間の離職率は、

	3年以内の離職率	3年以後の離職率	離・転職無
ことばと文化学科	27%	8%	65%
こども学科	26%	7%	67%
看護学科	10%	20%	70%
健康栄養学科	36%	2%	62%

離職理由：上位3位まで

	1位	2位	3位
ことばと文化学科	人間関係（38%）	会社の将来性（25%）	勤務地（25%）
こども学科	仕事内容（20%）	社風・職場の雰囲気(16%)	人間関係（12%）
看護学科	仕事内容（25%）	社風・職場の雰囲気(19%)	人間関係（19%）
健康栄養学科	仕事内容（27%）	社風・職場の雰囲気(13%)	人間関係（13%）

（ ）内は前回調査

最初の就職先から一度も離・転職しない卒業生が60%以上と圧倒的に多いが、3年以内に離職する卒業生も一定割合いることが判明した。

離職理由として、こども学科、看護学科、健康栄養学科では、上位3位までの離職理由が同じであった。

専門性の高い職業に就く3学科であり、仕事内容等についてある程度想像できるそれぞれの業界ではあるが、実際働いてみて、そのギャップに戸惑い、悩んでいる状況が見えてくる。

また、ことばと文化学科においては、一般企業中心の就職で、業種も様々な分野に渡っているのが特徴になっている。離職理由の上位にある「人間関係」や「会社の将来性」について、就業前に確認できるか不透明であるため、今後インターンシップ等への参加を推進し、企業研究を促すことで改善に繋げていくようにする。

#### 5. 鹿児島純心女子大学を卒業して良かったかどうか。

はい 93%（97%）

どちらでもない 7%（1%）

いいえ 0%（2%）

「はい」と回答した割合が9割以上であった。前回調査同様多くの卒業生が鹿児島純心女子大学を卒業して良かったと肯定的に感じている。

#### 6. 進路支援課の開催する講座や、支援に満足されましたか

はい 78%（78%）

どちらでもない 1%（4%）

いいえ 21%（18%）

表5 進路支援課の学生支援に関する満足度（学科別）

	英コミ・ことば	こども	看護	健栄
はい	70%(71%)	77%(80%)	78%(76%)	80%(92%)
どちらでもない	30%(4%)	23%(10%)	20%(5%)	20%(0%)
いいえ	0%(25%)	0%(10%)	2%(19%)	0%(8%)

（ ）内は前回調査

前回調査同様、7割以上が進路支援課のサポートに満足しているという結果になっている。

本学は学生数が少なく学生一人当たりのケアが大規模校にくらべて行き届いていると考えられていたが、それが裏付けられる結果と考えられる。

## 7. 充実してほしい進路支援項目

マナー・面接講座	42%(38%)
一般教養	39%(41%)
論文作成	12%(13%)
その他	7%(8%)

### 【その他の内訳】

コミュニケーション講座  
社会人としての心構えや知識の講座  
企業研究  
面接指導  
業種、職種等について など

要望の多かったものはマナー・面接講座と一般教養であった。本学では集団指導として、アセンブリーを利用して、学年ごとにマナー講座を行っており、さらに就職の際の面接指導を希望者には個別に行っているため、他大学よりも手厚いサポートをしていると考えられる。

しかし、本卒業生アンケートから、マナー・面接講座充実への要望が強いということは、就職試験対策というよりは、社会に出る直前にマナー・面接など対人関係の基本事項を改めて学び、新社会人としての備えをしたいとの側面が強いのではないかと考えられるため、今後は卒業前に実施することも検討する。

近年の就職試験の筆記試験において良く利用されるのが、適性検査（SPI）と一般常識（一般教養）問題である。本学でも低学年から複数回、SPI 対策を実施するなど対策を講じている。また一般教養講座は全学生対象として、夏季休業中に毎年実施し、教員養成センターでは教員採用試験対策講座（国語、社会、数学、理科）を、教員以外の希望者に対しても実施するなど、筆記試験対策に力を入れているところではあるが、今後は在学生により周知を図り、満足度を上げていきたい。

## 8. 大学の授業で一番心に残っているものは何ですか？

- ・ことばと文化学科、英語コミュニケーション学科  
インターラクティブイングリッシュ、海外研修
  - ・こども学科  
ピアノ実技、こどものカウンセリング、チャイルドウォッチング、こども学フィールドワーク
  - ・看護学科  
看護観、助産演習、緩和ケア学、臨地実習、女性と日本文化
  - ・健康栄養学科  
調理実習、生化学実験、食品加工学、大学祭アップルパイ作成、給食経営管理実習、解剖生理学
  - ・教職  
教育心理学、栄養教育実習、教職フィールドワーク、学校インターンシップ
- 各学科ともに実践的な授業、演習等をあげる卒業生が多かった。

9. 大学時代、やっておけばよかったと思うこと（複数回答）。

サークル活動 37%(29%)

専門性の深化 30%(40%)

アルバイト 17%(14%)

インターンシップ 16%(17%)

【その他の内訳】

海外ボランティア

ゼミ

勉強

旅行

「サークル活動」 学生は講義、実習、留学等の合間に約7割の学生がアルバイトをしている中で、在学中にサークル活動を行う時間的余裕は無いのが実情である。また実習や留学等がある学科では、サークルを継続して続けられることも難しく、いわゆるキャンパスライフが送れなかったことが理由だと思われる。

「専門性の深化」 変化の激しい時代において、必要な専門分野の知識とともに、変化に対応するため、より一層柔軟な発想が求められてくることが多くなり、さらに社会人として学び続ける意識が必要であるとの気づきの表れでもあると思われる。

10. 純大生の資質について（上位5つ）

10-1. あなたが採用担当者だったとして、新卒者に重視するものはどんな点ですか。

今回調査	1位 コミュニケーション能力、2位 一般常識、3位 協調性、4位 誠実さ、5位 ストレス耐性、
前回調査	1位 コミュニケーション能力、2位 協調性、3位 一般常識

10-2. 純大生に備わっているのはどんな点ですか。

今回調査	1位 やさしさ、2位 誠実さ、3位 奉仕の精神、4位 専門性、5位 協調性
前回調査	1位 やさしさ、2位 奉仕の精神、3位 熱意

10-3. 純大生に欠けているのはどんな点ですか。

今回調査	1位 ストレス耐性、2位 実務能力、3位 発想の豊かさ、4位 バイタリティ 5位 一般常識
前回調査	1位 ストレス耐性、2位 実務能力、3位 バイタリティ、3位 発想の豊かさ

今回の調査結果については、前回調査とほぼ同様の回答結果となった。

10-1の結果については、コミュニケーション能力や一般常識、協調性等の重要性の認識は前回調査と変わらずあるようである。この点においては普段から学生に、社会で必要なスキルとして紹介していることが浸透している結果であると考えられる。

10-2の結果については、本学の建学の精神である「聖母マリアのように神様にも人にも喜ばれる人材の育成」が反映された結果になっており、本学の教育効果が表れている結果となっている。

10-3の結果については、やさしさと奉仕の精神等の資質が備わっているものの、精神的なたくましさや、臨機応変に対応する対応力などが欠けているとの認識がある。今後は両者の資質をどのように両立させていくかが課題になる。

なお、平成27年度に企業の人事担当者の方にアンケートを行った結果と比較してみると、一般的に新卒（女子）の採用にあたって重視しているものは、「協調性」、「マナー・礼儀作法（一般常識）」、「コミュニケーション能力」、「明朗さ」という回答を得ている。これと本学卒業生の10-1の結果を比較するとほぼ同じ結果になり、採用側が求める資質について卒業生は理解していることが分かる。

同様に、企業の人事担当者の方に純大生に比較的備わっていると感じられ、評価できる点との質問に対しても「マナー・礼儀作法」、「協調性」、「明朗さ」との回答があり、これも10-2の結果と似た傾向を示した。

また、純大生に欠けている資質として、企業側が感じている点は「主体性」、「バイタリティ」、「コミュニケーション能力」であったが、今回卒業生の回答10-3によると「コミュニケーション能力」についてある程度備わっているとの回答となり、企業側との認識にズレが生じた結果になった。

今後は、改めて企業アンケートを実施し、最新データで比較検討することで、本学卒業生と企業等の認識について確認し、今後の進路支援及び教育活動に繋げていきたいと考える。

### 1.1. 進路支援課での卒業生への進路支援の認知度

卒業生に対しても進路支援を行っているのを知っていた 70%(50%)  
 知らなかった 30%(50%)

前回調査に比べ卒業後にも進路支援を行っていることについての浸透が図られた結果となった。前回調査の反省を踏まえ、毎年アナウンスを徹底した効果が出てきたと思われる。

### 1.2. 本学で受けた教育が、どの程度実社会で役立ちましたか

	英コミ・ことば	こども	看護	健栄
役立った	65%	95%	78%	71%
どちらともいえない	35%	5%	20%	29%
あまり役立たない	0%	0%	2%	0%

全学科ともに、本学教育が「役立った」との回答が圧倒的多数であったが、「どちらともいえない」との回答が一定割合ある学科も目立った。アンケートの詳細をみると最近卒業した卒業生が、この回答を多くしていた。社会に出てみて大学で培った能力が発揮されているかどうか判断がつかかっている状況ではないかと思われる。

### 1.3. リカレント教育（社会人の学び直し）に興味がありますか。

	英コミ・ことば	こども	看護	健栄
ある	65%	95%	78%	71%
どちらともいえない	35%	5%	20%	29%
あまりない	0%	0%	2%	0%

「ある」の自由記載内容

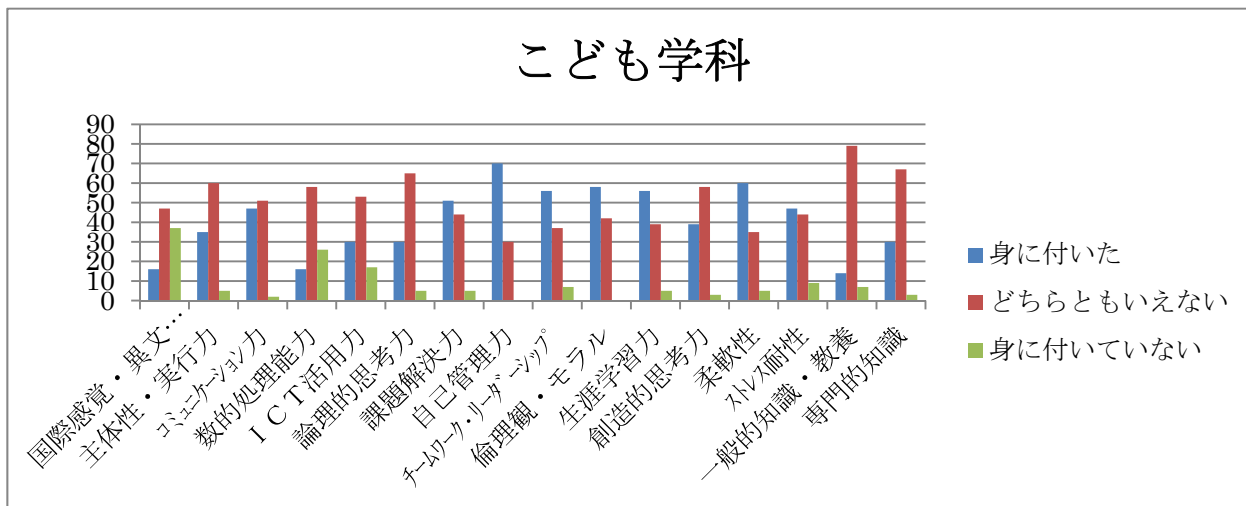
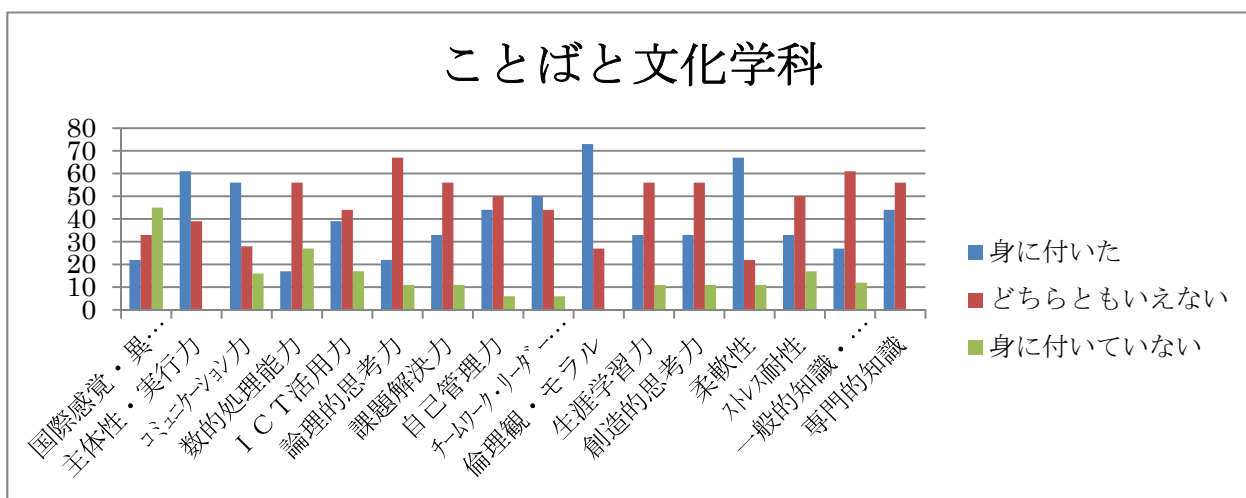


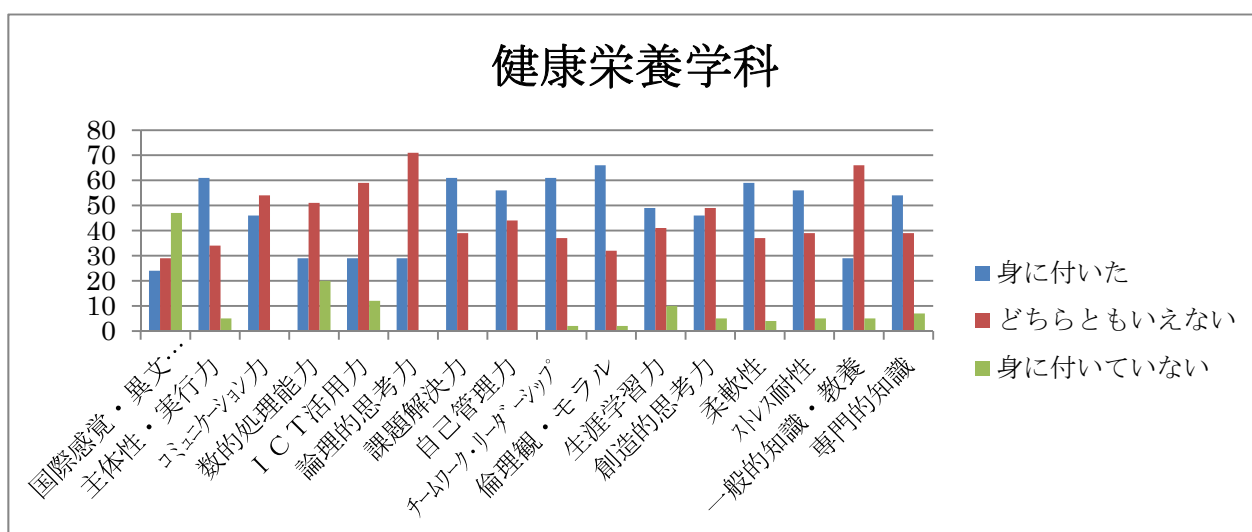
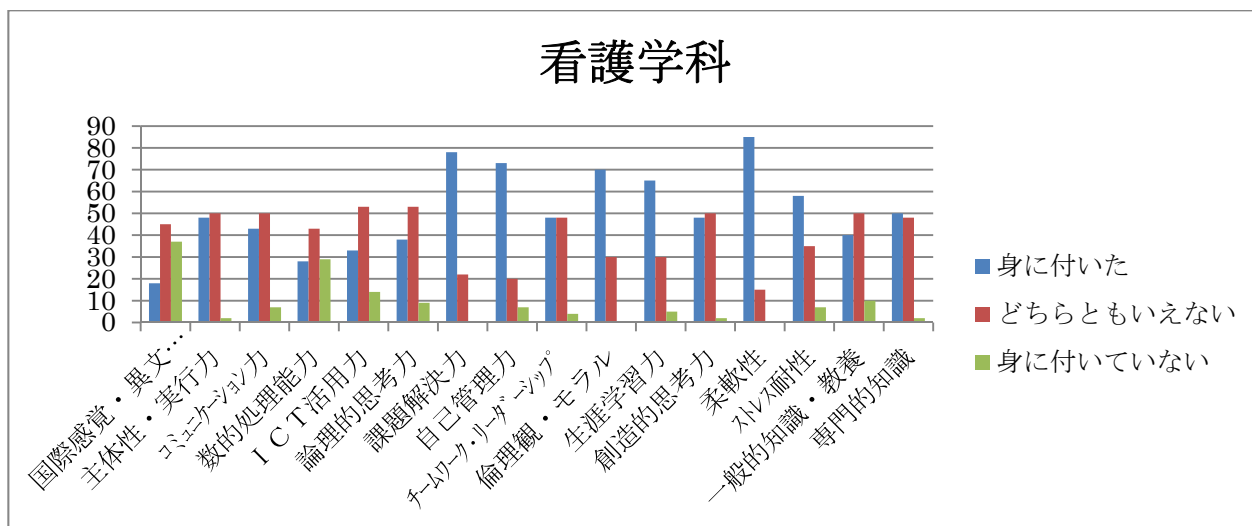
- ・英コミ・ことば・・・教育心理、一般常識、語学、文学、心理学等
- ・こども・・・特別支援教育、障害児教育、早期療育、乳児について、外国語、医療ケア栄養学、看護、専門性の深化等
- ・看護・・・ストレス対策、臨床心理、語学、心理学、コミュニケーション力等
- ・健栄・・・営業学、被服、心理学、語学、コミュニケーション力、パソコン等

各学科ともにリカレント教育に興味があるという結果になった。自由記載内容をみると専門分野で必要に迫られた分野に加え、各学科とも語学についての要望が特徴として挙げられる。

教養的な部分に加え、様々な職場で外国人対応を求められるケースが増えて来たことが要因と思われる。

#### 1 4. 社会人として必要と思われる能力・資質が身に付いていますか。





このアンケート項目に掲げる能力や資質は、中央教育審議会答申にある「学士力」や経済産業省が提唱する「社会人基礎力」等に基づき、社会人として必要と思われる能力・資質を挙げたものである。現在の状況に照らして、自分に備わっているかどうか、今回初めて調査した。

#### 「国際感覚・異文化理解力」

- ・ 全学科20%前後の学生が身に付いたとの回答した。特にことばと文化学科では専門分野にもかかわらず低い値であったことは検討の必要があると思われる。

#### 「前に踏み出す力（主体性や実行力）」

- ・ ことばと文化学科と健康栄養学科で身に付いたとの回答が61%で特に高く、看護学科でも50%近くが身に付いたと回答した。
- ・ 全学科身に付いていないとの回答はいずれも5%以下であった。

#### 「コミュニケーション力（自分の意見を分かりやすく伝える力）」

- ・ 学科の特徴として、ことばと文化学科が一番身に付いた回答が高く56%であった。他の3学科も40%台と一定割合でコミュニケーション力は身に付いているようである。

#### 「数的処理能力」

- ・ 身に付いていないが各学科25～26%程度あった。SPIでは数的能力もみられるため今後の課題となる。

#### 「情報通信技術（ICT）活用力」

- ・ 各学科ともに「どちらともいえない」が多い回答となった。ICTという分野が何を指すのか不透明な要素があったためと思われる。

#### 「論理的思考力（情報や知識を論理的に分析し、表現できる）」

- ・ 「どちらともいえない」という回答が各学科多かった。調査段階では経験年数も浅い卒業生も多いため、知識を吸収することが最優先され、論理的に分析し、表現するところまでたどり着いてないことが推察される。

#### 「課題解決力（現状分析し目的や課題を明らかにし解決する力）」

- ・ ことばと文化33%、こども51%、看護78%、健栄61%が身に付いたと回答した。ことばと文化学科以外は一定程度の課題解決力はあると感じているようである。

#### 「自己管理能力（自らを律して行動できる力）」

- ・ ことばと文化44%、こども70%、看護73%、栄養56%が身に付いたと回答した。建学の精神に基づく人格教育が効果を上げていると思われる。

#### 「チームワーク、リーダーシップ（他者と協調・協働できる、他者に方向性を示し目標実現のために動員できる）」

- ・ ことばと文化50%、こども56%、看護48%、栄養61%と、本学の特長である少人数教育の効果により、他者と協議・協働できる力は身に付いているようである。

#### 「コンプライアンス・倫理観・モラル」

- ・ ことばと文化72%、こども58%、看護70%、栄養66%が身に付いたと回答。全学科ともコンプライアンス、倫理観、モラルについては高い割合で身に付いている。

#### 「生涯学習力（卒業後も自律・自立して学習できる力）」

- ・ ことばと文化33%、こども56%、看護65%、栄養50%が身に付いたと回答。ことばと文化学科以外の3学科では社会人として学び続ける力は身に付いているようである。

#### 「創造的思考力（自ら立てた新たな課題にこれまでの知識等を適用し解決する力）」

- ・ 身に付いていないとの回答はほとんどなかった。

#### 「柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）」

- ・ ことばと文化67%、こども60%、看護85%、栄養59%が身に付いていると高い回答率であった。

#### 「ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）」

- ・ ことばと文化33%、こども47%、看護58%、栄養56%が身に付いていると回答。他の項目に比べ身に付いたとの回答は低くストレスコントロール（ストレス耐性）に自信が無いようである。

#### 「一般知識」

- ・ 大学で一般常識講座があまり無いため、身に付けているとの回答は全学科ともに低くなっていると思われる。

#### 「専門的知識」

- ・ 全学科ともに専門的知識が身に付いたとの回答が低い理由として、大学での学びがそれぞれの職場で存分に発揮されていない状況のためと思われる。

今回初めての調査項目であったが、社会人として必要と思われる能力・資質全16項目において、「身に付いた」と思われる項目は、全学科ともに4割から5割程度であった。今後はこれら

の項目に視点をおいた教育課程やガイダンス等を設定し、能力・資質の向上を目指していくことも望まれる。

14-1. 「①身に付いている」に○印を付けた項目で、そのような力を身につけるのに何が役立ったとおもわれますか。(上位4項目)

	1位	2位	3位	4位
ことばと文化学科	純大教育(13%)	サークル活動(8%)	アルバイト(8%)	勤務先経験(8%)
こども学科	純大教育(39%)	勤務先経験(33%)	サークル活動(31%)	アルバイト(24%)
看護学科	勤務先経験(31%)	純大教育(30%)	サークル活動(16%)	アルバイト(13%)
健康栄養学科	純大教育(31%)	勤務先経験(23%)	アルバイト(22%)	サークル活動(21%)

大学での教育活動で社会人としての能力・資質が身に付いたとの回答が、全学科上位を占めた。またこども学科、看護学科、健康栄養学科など専門性の高い職種では、働きながら社会人としての能力・資質が向上しているようである。さらに学生時代でのアルバイトやサークル活動についても、社会人としての能力・資質を醸成するのに役立っていることもこの調査から判明した。

#### 15. 在校生へのメッセージ

94人の卒業生がメッセージを書いてくれた。それらのうちで共通するキーワードとして、以下のものが上げられる。

- 学生生活を楽しんで下さい。
  - 悔いのない学生生活を送って下さい。
  - 就職活動のアドバイス
  - 応援メッセージ
  - 勉強をして下さい。
  - 社会人としてのメッセージ
- などがあった。

以下にいくつか具体的なものを紹介する。

- 大学生は良くも悪くも自己中心的ですが、社会人は相手を気遣うことが自分へのプラスになると思います。これからも相手を思いやる気持ちを純心で学んで下さい。
- 学生のうちに一般常識やマナーを身に付けておくことを強くすすめます。
- 何度か実習生を受け入れましたが、実習の意味を理解し、もう少しやる気を出して、一つでも目標を持って頑張ってもらえればと思います。
- 社会人になって大切だと感じたことは「素直な心」「謙虚な心」です。仕事での失敗や先輩からのお叱りの言葉も素直に受け入れることで、自分の成長につながると思いました。
- 社会人になってみて専門的知識が根底にある上で「問題の発見、提起、解決」能力が無いと受動的な働きしか出来ないと分かりました。
- 「今やってた方が良いよ」と言われると思います。5年・10年後にその言葉の重みが分かると思いますので、悔いの無いように充実した日々を送って下さい。
- 社会に出たら一人で抱え込まず同僚や先輩との信頼関係を築き、自分から心を開いて何事も頑張れば、必ず誰かが見てくれて助けてくれます。